

厚生環境教育常任委員会視察報告書

厚生環境教育常任委員会委員長 片山竜美

1 日 に ち	令和 5 年 10 月 2 日 (月)
2 視 察 先	多治見市立北陵中学校
3 参 加 者	【委員長】片山竜美 【副委員長】三輪寿子 【委員】加藤智章 奥村孝宏 井上あけみ 嶋内九一
4 調 査 内 容	校内教育支援室の取組
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	【視察の流れ】 1 安藤校長より概要説明 2 校内教育支援室視察 3 質疑応答・懇談 【主な質疑・懇談内容】 ・ 目標ではないが、学校としては少しでも不登校の数を減らしたい。そのための支援室である。 ・ 今年は新たな不登校がいない。着実に成果を上げていると信じている。 ・ 支援室は教室の 1.5 倍ある。ゆとりをもったスペースになっている。 ・ 個人ブースの高さは、座って頭が見える程度にしている。 ・ 生徒が出入りしやすいように、支援室を 1 階に移した。また、一般生徒とは別の出入口と廊下には仕切り板を設け、登下校時に誰からも見られないような工夫をしている。 ・ 個人の 1 日の予定を黒板に記載している。あくまでも本人の意思で決定している。 ・ ほほえみ相談員が、学校の意図をしっかりと理解して動いてくださり、たいへんありがたい。 ・ 必ず教員が 1 時間に 1 人付くようにしている。北陵中の規模だからできるが、小学校や小規模の中学校では、教員の数が足りないため、難しい。 ・ 学年の教員や教科の教員が、空き時間に支援室や特別教室で個別に授業を行うこともある。 ・ 教室にも支援室にも入れない生徒もおり、登校した際には、キキョウスタッフが対応している。ありがたい存在である。

- ・ ギガスクールによって、1人1台端末があり、授業の幅が広がった。支援室や家庭の中で授業が受けられるのはありがたい。オンライン授業での様子や送られてきたノートも評価している。
- ・ 文部科学省のCOCOROプランは、大まかに言うと「学校に来なくてもいいよ」だが、現場としては、何とか関わりを持ち、生徒に「北陵中の一員なんだ」という自覚を持ってもらいたい。そのために、登校や教室へ入ることをこれからも生徒の実態に応じて進めていきたい。
- ・ 支援室経営について、職員の中でも意見が分かれるが、しっかり話し合い、最低のラインを決めて、理解し合って行っている。

【所感】

- ・ 安藤校長が、これまで培ってきたノウハウをこの支援室につぎ込んでいると感じた。これからも試行錯誤は続くと思うが、多治見市の子どもたちのために、これからも進化し続けてほしいと願う。
- ・ 北陵中がこれまでよりも大変落ち着いた学校になってきたからこそ、こういった大胆な改革ができたのではないかな。そこに至るまでの先生方のご努力に感謝する。
- ・ ほほえみ相談員、キキョウスタッフをはじめ、すべての教職員間で意思疎通ができていていると感じた。皆が話し合い、納得した上で行動している。校長先生の手腕、人柄によるものと思う。
- ・ 個別ブース等に数名の生徒がいたが、自主学习など、それぞれが自分のすべきことを集中して行っていた。しっかりと目的をもって支援室に来ている。
- ・ ・このような校内支援室の設置や職員の拡充を進めていかななくてはならないと感じた。特に、人の配置は重要である。議会としてそういったことへの支援を惜しまず行っていきたい。

6 写 真 等

